



# あかまつ

## 学校教育目標

深く考える子供

明るく思いやりのある子供

丈夫でたくましい子供

**重点教育目標** 「わかる できる つかえる 子供」の育成  
～「安全 安心 安定」のある学校をめざして～

## 読書のススメ

「〇〇の秋」と聞かれて、みなさんはなんと答えますか？ちなみに、一番多い答えは「食欲の秋」だそうです。他にも、「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」「学習の秋」・・・秋は、暑さも和らぎ、何をすることもとても最適な季節とも言えます。

さて、右の写真は、中休みの図書室の1コマです。毎日たくさんの子供たちが図書室に来て、本を読んだり、借りたりしています。また、図書ボランティアの方と一緒に折り紙を折って図書室の飾りを作る姿も見られます。とても活気にあふれた図書室になっているのも、ボランティアの方々のおかげです。ありがとうございます。いつもアイデアを出し合い、現在は下の写真のような木を制作しています。飾る葉などは、子供たちと一緒に作っています。本当に賑やかで楽しい図書室です。図書ボランティアの方は、「七重小学校の図書室が、子供たちにとって楽しいところになればいいな。」といつも話しています。



8月5日発行のアルコリス（学校通信）でもお知らせをしましたが、本校では読解力を育てることに重点をおいて教育活動を進めています。読解力を育てるためには、読書がもっとも有効だと言われています。読書量が多いと語彙が豊富になり、学力の基礎である読解力も高まります。豊かな語彙や読解力は、国語だけでなく算数や理科など全ての教科の内容を理解する上でとても重要な要素となります。また、読書を通して、世の中にある様々な考えや価値観を知ることが出来ます。そのことが、多角的に物事をとらえる思考力を伸ばし、相手に自分の考えをわかりやすく伝える力や自分の感情をコントロールする力にもつながっていきます。このように読書は、豊かな情操を養うために非常に有効な方法です。学校では、今後も読書活動に力を入れていきます。

しかし、子供が読書を好きになるためには、やはりご家庭の力もとても重要となります。一番効果的と言われているが、低学年であれば「本の読み聞かせ」、高学年であれば「親が子供と一緒に読書する」ことです。「本の読み聞かせ」は、耳から聞いた物を頭でイメージする力が育てます。後に自分から本を読むようになったときにイメージ化ができやすくなり、自然と読書好きになりやすいそうです。また、「親が子供と一緒に読書する」は、親が本を読んでいる姿を見せることです。昔から、子供は親の姿を見て育つと言われます。親が読書をしていると自然と本に興味を持ちます。他にも、子供の目に入るところに本があることも有効だと言われています。「読書の秋」です。ぜひ、秋の涼しい季節の中、家族で読書しながらゆったりとした時間を過ごしてみてもいいですか？

### アルコリス「読み解く力を育てます」(8月5日発行)から

低学年は  
読み聞かせ



高学年は親子で  
一緒に読書



どこがおもしろかった？  
どうしてそこが好きだったの？（好きな場面や理由を話してもらおう）

どんなお話だったかな？（かんたんにあらすじを話してもらおう）

お母さんのおすすめはこの本なんですけど、あなたは？  
交換して読んでみない？お母さんにおすすめの本を教えてください！（子どもと同じ空間で読書をして会話をもつ）

※読書の後のちょっとした『会話』が読解力を育てます!!

普段の教育活動の様子については  
七重小学校HPをご覧ください。  
＜毎日更新中＞

<https://www.town.nanae.hokkaido.jp/education/category/501.html>

七重小学校

